

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部文化学科
氏 名 塚本 明

活動テーマ	大学・市民連携による持続的地域文化運動の構築 ～奥熊野山村文書の調査と活用～
実施期間	平成 25 年 6 月 1 日 ～ 平成 26 年 3 月 28 日
活動内容	<p>本事業は、熊野市域に豊富に残る古文書史料を、熊野市教育委員会の協力を得て、地元市民グループ・熊野古文書同好会と共同で学術調査を行うものであり、2008～2009 年度に実施した熊野市大泊町善根宿納札調査（調査対象となった「納札」は後に三重県指定文化財に登録）、2010 年度の湯谷かやのき資料館所蔵文書の調査、2011～2012 年度の熊野市歴史資料館所蔵文書調査に続く活動である。今年度は奥熊野の山村・育生町粉所区に伝わる古文書調査に着手した。</p> <p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>8 月に予備調査を行った後、9 月 24～26 日に第 1 回集中調査を実施した。参加者は三重大側 17 名（教員 1 名、学生等 16 名）、熊野古文書同好会 6 名、延べ人数 59 名であった。2014 年 3 月には、同じく予備調査後の 26 日～28 日に第 2 回の集中調査を行い、三重大側 18 名（教員 1 名、学生等 17 名）、熊野古文書同好会 6 名、延べ 66 名の参加を得た。</p> <p>調査自体は予め古文書を借り出して熊野少年自然の家を会場として実施したが、2 度の集中調査の最終日にはいずれも調査団で粉所区を訪れ、調査の成果を報告し、住民の皆さんと交流を深めた。</p> <p>粉所文書には代官からの達状や粉所村が属した入鹿組の大庄屋機構に関する文書など紀州藩政に関わる史料も多く含まれるが、今年度の調査では粉所村の有力者であった南家による大規模な林業経営の様相が分かる文書や、薬草の調合と家伝の薬の売買に関する文書、榎の実の調達を命じられた文書など、熊野の山村ならではの特徴ある史料が多数見出され、それらの内容を紹介する現地報告会は、住民の皆さんにも大いに喜ばれた。この報告会の様子は、新聞各紙（中日新聞、毎日新聞、南紀新報、吉野熊野新聞）でも詳しく報道された。</p> <p>2 度の集中調査で調査カード約 500 枚余を作成したが、それらは現在データ入力中である。熊野古文書同好会の向井会長及び粉所区の有木区長と相談し、文書の内容を一般向けに分かり易く解説した文章を、地元新聞（南紀新報、吉野熊野新聞）に掲載していくことにし、既に新聞社側の内諾も得た。三重大側（塚本研究室）では、2014 年度の授業、日本歴史演習 G のなかで、学生たちにも執筆を取り組ませて、塚本の指導の上で地元への成果還元を図っていく予定である。</p>

(2) 地域への貢献

熊野市域には、豊富な古文書が残されているものの、古文書を扱う専門家が不在のため、十分な調査がなされてこなかった。本事業の調査により、熊野市域の古文書史料の全貌を明らかにし、将来の活用につなげていくことを、熊野市教育委員会から要望されている（同時に、様々な形で継続的な支援を約束下さっている）。集中調査・成果報告会・交流会などについての地元新聞の報道に見るように、熊野市域の文化活動や歴史像解明に大きく貢献することが、行政のみならず住民からも期待されている。

熊野古文書同好会では崩し字史料の輪読会を定期的に行っているが、古文書を学術的に読み解き、内容を分析することに習熟してはいない。そのため調査中に随時古文書から史実を把握するためのミニ講習を行い、また文化財の取り扱いに関する技能を地域社会に伝えることに努めている。なお、古文書同好会では、地元新聞に古文書の内容を分かり易く紹介する連載を計画しており、その指導も始めている。

(3) 共同実施者との連携状況

熊野古文書同好会とは、今年度2回実施した集中調査において共同して作業を行ったほか、現地見学会、成果報告会などを通して密な交流を図った。熊野市教育委員会からは、古文書の所在調査、調査の成果報告会、区民との交流会などにおいて、熱心な御支援を頂いた。県立博物館では、昨年度から熊野市五郷町柳谷の民俗調査を進め、常設展示に反映させているが、奥熊野の生活実態の研究として情報を交換し、将来の共同研究に備えている。

(4) 大学の教育・研究成果とのかかわり

集中調査で撮影した古文書史料を、大学でのゼミ演習などで活用するなど、教材としても利用させて頂いている。原文書を直接扱うことで、学芸員の実務仕事の一部を体験することになっている。

現地に赴き、原文書を用いて調査を行う機会は、学生にとって貴重な経験であり、参加した学生には学ぶ意欲の向上が顕著に見られる。また地元の社会人の方々と共同で作業し、交流することによる社会的経験値の高まりも大きい。特に2度の調査の最終日に現地を訪れて地元の方に古文書の内容紹介を学生たちが担当したが、これは説明・情報発信能力を向上させる上でも意義深いものであった。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

熊野市歴史民俗資料館所蔵文書調査、熊野少年自然の家、延べ59名（第1回）、延べ66名（第2回）。

古文書調査成果報告・地元との交流会、熊野市粉所区会所、24名（第1回）、25名（第2回）。

